

コミュニケーションからはじめよう



安全対策のアプローチには、主に「機械」と「人」があります。
安全性 100%の完璧な機械であれば、事故は激減するでしょう。
たとえば、絶対に転倒しない構造のトラクタが普及すれば、転倒事故は無くなります。

実際、農業機械の安全性は向上しつつあります。
最近では、最新の機種にトラクタの片ブレーキ防止装置などが導入されました。

さて、それではひとつ考えてください。
はたして、農業者全員が安全性に優れた最新の機種に更新するでしょうか。

おそらく、使用中の農業機械が壊れてしまった場合、多くの農業者は、
金銭的な理由により、「中古機械を探す」または「更新できずに廃業する」
という選択を迫られるのではないのでしょうか。

そのため、農業の事故では「人」にアプローチせざるを得ない面があります。
ここで、心に留めておくべきは「人はミスをするのが前提」ということです。
「危ないので注意してください」では、ほとんど意味がありません。

「注意しろ」という前に、次の2点が重要です。
①作業環境の改善（例：田畑の進入路の整地、畑と土手の境目に目印など）
②機械の安全確保（例：刈払機の防護カバーの装着、トラクタの安全フレームの起立など）

「環境」や「機械」の見直しをしてから、「人」の安全対策をするべきでしょう。
これは、ヒューマンエラーが多いとされる高齢者では尚更です。

そして、安全対策を具体的に知るためには、
農林事務所・普及所、JA、本校などが実施する農作業安全講習会への参加をおすすめします。
少なくとも、「こんな危険があるんだな」とは感じてもらえると思います。

また、農業者本人以外の家族が参加して、家族から本人に声かけするのも良いでしょう。
農業法人や組合の誰かが参加して、自分の組織に持ち帰るのも良いでしょう。
地域のリーダーが参加して、地域住民に呼びかけるのも良いでしょう。

他の人とのコミュニケーションで、安全意識が広がることを願います。